



[特集]
ICTで医療の便利と安心をつくる
「サルビアねっと」

TAKE FREE

ご自由にお持ちください

[OTHER CONTENTS]

▶ LEADERS

患者さんの心に寄り添う

[なでしこボランティア]

八ッ橋葉子さん・吉川利夫さん・大久保よし子さん

▶ NEWS & TOPICS

再生医療外来を新設しました ほか

もっと知ってほしい 「サルビアねっと」のこと

今春3月27日、待望の「サルビアねっと」がスタートしました。

これは、鶴見区を中心とした医療機関・介護施設と、その登録者をつなぐ、ICT(情報通信技術)を活用したネットワークサービスです。サルビアねっとをご理解いただくために、皆さまからよく頂く疑問・質問にお答えします。

Q

誰が、何のために、始めたの?

A 鶴見区内の主要な病院・歯科・看護・介護の関係者が集まつた協議会によって運営されています。

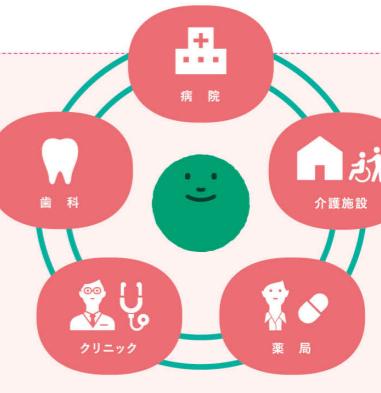
ひと言で言うなら、「皆さんの健康に役立つ」ことを目的としています。サルビアねっとを活用して正確な情報に基づいた医療・介護サービスが提供されることで、皆さんの安心と安全を高め、同時に利便性も向上させるのがねらいです。

サルビアねっとの仕組み

これまでにどんな病気・検査・治療をしたのか、どんな薬を服用したのか、またアレルギー等がないか、といった情報が、参加している医療機関や介護施設間で相互に共有されます。

こんな情報が共有されます

- 電子カルテ ●薬の処方歴 ●アレルギー
- 医療機関の受診履歴 ●検査結果 など



Q

登録したらどんな
“いいこと”があるの?

A 初めて受診した病院で、別の医療機関で行った治療や処方された薬について聞かれ、困った経験はありませんか? サルビアねっとに登録していれば、こうした情報を病院がすぐに確認できるため、最適な治療をスムーズに受けることができます。救急搬送された方やご高齢の方、小さなお子さんなど、患者さんが正確な情報を伝えられない場合や、災害時にも役立ちます。また、検査の重複や薬の多重処方などを避けられます。

みんなの
「今」と「未来」に
必要な仕組みです

Q

個人情報を提供して大丈夫?

A 国が定める医療情報の取り扱いに関するガイドラインに対応し、徹底した注意が払われています。安心してご登録ください。サルビアねっとの画期的な特徴として、情報へのアクセス権限を細かく設定している、という点があります。興味本位に情報が閲覧されることを防ぐため、どの立場の人がどの情報にアクセスできるかの制限を設けているのです。また、誰がどの情報にアクセスしたかという履歴も、しっかり記録されています。

Q

他の地域ではどうなの?

A 国が保健医療情報の全国的なネットワークづくりを進める中、同様の取り組みが各地域で始まっており、およそ200の地域で行われています。ただし、その規模や運用方法はそれぞれ異なり、都市部での活用を想定して、さまざまな仕組みがつくられています。そのためサルビアねっとは「都市型」医療介護連携の先駆的な取り組みとして注目されています。

Q

どうやって
登録したらいいの?

A 参加施設で配布している申込書に記入し、提出してください。郵送でも受け付けています。登録は無料です。申込書はサルビアねっとのホームページでもダウンロードできます。参加施設は同ホームページで確認できます。現在、医療機関にかかるいない方も、将来あるいは緊急時の備えとして登録されることをお勧めします。

QRコード
[サルビアねっとホームページ](http://tsurumi-salvia.net/)

お問い合わせ・お申し込みは下記事務局まで。

一般社団法人サルビアねっと事務局

TEL. 070-4088-5653 月曜～木曜10:00～16:00 受付

中面では、サルビアねっとに
参加している施設や
関係者の声をご紹介しています!

よりよい地域医療のために

登録しよう! 「サルビアねっと」



サルビアねっとは、鶴見区の主要な総合病院・クリニック・歯科・薬局・介護施設が行政と共に作り上げた情報ネットワークです。実際に参加している各施設の皆さんのお声をご紹介します。



[医師]
佐々木啓吾

特定医療法人社団育成社
佐々木病院 理事長・院長

現在、佐々木病院の患者さん約1,400人がサルビアねっとに登録されています。鶴見区は今後24年間にわたり人口増加が見込まれておらず、ピーク時には31万人になると予想されています。サルビアねっとは、区民の健康・医療介護の大きな武器になると確信しております。ぜひ登録して、ご自身・ご家族の健康を守りましょう。



[医師]
窟倉孝道

横浜労働者福祉協会
(汐田総合病院) 理事長/
うしおだ老健やすらぎ 施設長

医療や介護現場の患者さん・利用者さん情報が適切に共有され活用されると、サービスの質の向上や効率化などに有用であるばかりか、地域に暮らす方に大きな安心感が生まれると思います。特に医療と介護の現場を行き来する高齢者に大きな福音となるこのツール。縦横に使いこなし、連携をいっそう強め、大きな成果を生み出したいと思っています。



[医師]
渡辺雄幸

渡辺医院 院長

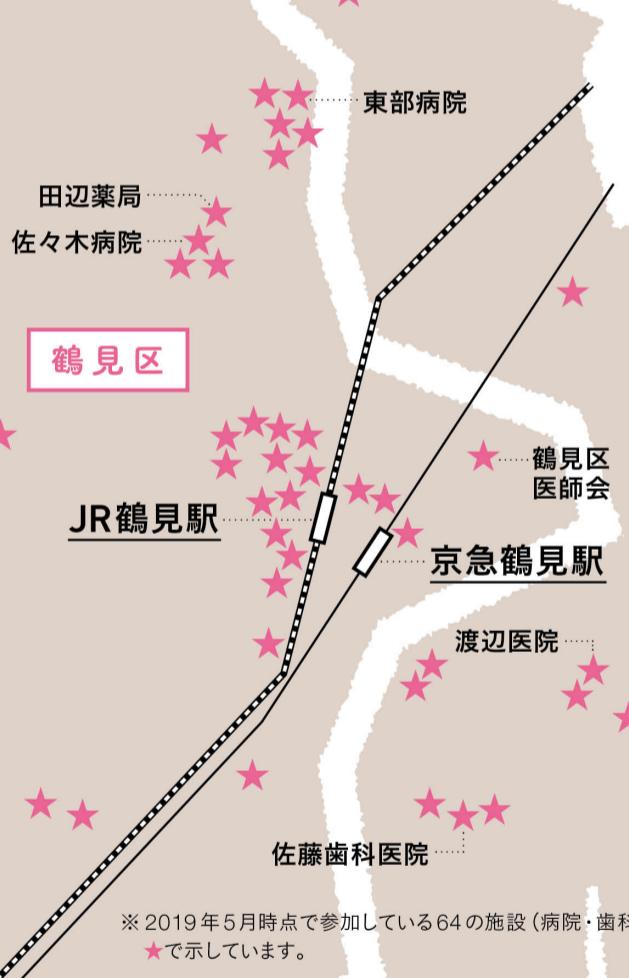
救急搬送されたとき、自宅で療養されるとき、災害時など、どんなときでも、すぐにその患者さんに関わるすべての医療・介護スタッフに必要な情報が提供され共有されることが、一番大切で必要なことだと思います。現在健康であっても、いずれは医療や介護のお世話をになります。皆さんのご登録をお待ちしています。



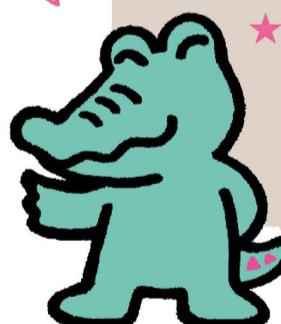
[歯科医師]
佐藤信二

鶴見区歯科医師会 会長/
佐藤歯科医院院長

妊娠さん・お子さん・高齢の方・有病の方など、すべてのライフステージの方が来院される歯科診療所では、病院・医科診療所・調剤薬局・介護施設とのあらゆる情報共有が必要不可欠であります。情報共有することで、来てほしくはありませんが、近い将来、来るであろう大災害時の手当や身元の確認に役立つでしょう。来院者の方々の安心・安全のための多職種連携ですので、ぜひたくさんの方々の登録をお願い致します。



医療・介護の現場の連携が密に行われていた鶴見区だからこそ、全国の都市に先駆けてスタートできた仕組みなんだ!



登録は無料、
手続きは
10分程度だよ

[鶴見区のマスコット]
ワッくん



[薬剤師]
石渡宏衛

鶴見薬剤師会 会長

薬の重複を避けたり、薬やサプリメントなどの相互作用を確認できるツールとして『お薬手帳』はとても有効ですが、それ以上に多くの情報を共有できるのがサルビアねっとです。例えば『検査の値に照らしてそのお薬が適切か』『用量は大丈夫か』など、調剤時に確認できます。皆さんもぜひご登録ください。



[薬剤師]
立川早苗

あろま薬局

サルビアねっとは、区民の皆さんに「鶴見区でよかった」と言ってもらえるサービスです。実際に窓口では「こういうサービス必要だよね!」という声を多く頂いています。『いざというときに皆さんの正確な情報をキャッチしたい』そんな思いで、鶴見区の医療スタッフ一丸となって、登録をお勧めしています。



[看護師]
鈴木志津江

鶴見区在宅医療連携拠点
管理者

急な体調不良や災害時では、自ら正確に検査結果やお薬情報などを伝えられないこともあります。サルビアねっとに登録されれば、受診先でも自宅でも、最適な治療や支援方法を提案してもらえることにつながります。安心して暮らし続けるために、ご自身の意思で準備する、その手段として、ご登録を考えてみてはいかがでしょうか。

「近い将来、横浜市全体あるいは国・県ともつながっていきます」

総合病院と地域のかかりつけ病院、クリニック、歯科医、さらに薬局、介護施設の連携は、これまで電話やファックスなどを使ってなされていました。サルビアねっとは、それをより効率的・効果的に行おうというものです。サルビアねっとは、鶴見区民だけでなく誰でもご登録いただけます。区内に通勤・通学される方にとっても有用なサービスだと思いますので、ぜひご登録いただけたらと思います。これから社会にとって医療介護連携サービスは不可欠な仕組みです。サルビアねっとは、「都市型」の医療介護連携として全国で初めてのケースで、他の地域からも注目されています。いずれは鶴見区だけでなく、横浜市内全体へと対象地域を広げ、さらに国や県とも連携していく予定です。このネットワークをよりよいものにしていくためにも、皆さんのご登録をお待ちしています。

三角隆彦

済生会横浜市東部病院 院長



サルビアねっとホームページ
<http://tsurumi-salvia.net/>

ご登録は参加施設にてどうぞ（郵送でも受け付けています）。左記ホームページで参加施設の詳細をご確認いただけます。

NEWS & TOPICS

新しい選択肢 「再生医療外来」を 新設しました



東部病院整形外科では、近年話題の多血小板血漿（PRP・APS）を用いた再生医療外来を開設しました。PRPとは自己血から抽出した血漿層で、軟部組織損傷の治療に用いられます。APSは、PRPを加工した自己タンパク質溶液のことです。炎症の抑制や軟骨の保護に有用で、主に変形性関節症に用いられます。治療には少量の採血が必要ですが、1時間ほどで全行程が終ります。体への負担が極めて少ない治療です。

本外来は、上肢・下肢それぞれの専門医であり同時にアマチュアアスリートとしてスポーツに精通する3名の医師（山部英行・谷川英徳・丸岩佑史）が担当します。テニス肘・ゴルフ肘・膝蓋腱炎・アキレス腱炎・靭帯損傷・筋挫傷・変形性関節症などにお悩みの方、ぜひ一度ご相談ください。

なお、本治療は自由診療（自費）となります。効果・副作用・合併症・費用など、丁寧にご説明いたします。

- 診療日：毎週金曜 9:00～12:00 ※完全予約制
- お問い合わせ先：整形外科直通ダイヤル 電話 045-576-1155（平日 9:00～17:00）

山部ドクターによる「再生医療」の治療説明会を開催します。

参加無料・予約不要です。直接会場にお越しください。

● 日時：6月20日（木）17:30～ ● 会場：東部病院3階 多目的ホール

INFORMATION

市民公開講座のご案内

- 6月11日（火）10:00
「切らすに治す膝痛—再生医療・運動・食事—」
整形外科 谷川英徳・OLSチーム
- 6月11日（火）14:00
「熱中症の正しい予防法・対処法」
患者支援センター 谷口英喜ほか
- 6月23日（日）10:00
「コール&プッシュで誰でもできる救命講座」
救命救急センタースタッフ
- 7月28日（日）13:30
「臨床検査の仕事を体験しよう！」
臨床検査部

※詳しくはホームページをご覧ください。

医者メシ！

現場スタッフの活力となる食べ物や“ここぞ！”のメニューなどを紹介します。
今回は、特集にも登場の三角院長と、再生医療外来担当の山部副部長です。



三角院長



整形外科
山部先生

「一杯のビールに元気をもらっています」なんて言えたらいいのですが、実は私、下戸で甘党です。お付き合い程度でも飲めたらなあ、と思います。だって楽しそうじゃないですか。甘い物を食べながら、飲める人をうらやましく思っています。

毎年、春と秋に軽井沢のハーフマラソンに出場しています。完走後の楽しみは温泉と蕎麦です。浅間山麓の蕎麦は、みずみずしい喉ごしで絶品。疲労回復を促すビタミンBが豊富で、炭水化物の中でも太りにくいというのもうれしいです。



済生会神奈川県病院 INFORMATION

2019年度 各種健康診断のご案内

新年度が始まり令和の時代がスタートしました。今年度の健康診断の予定は、もうお決まりでしょうか。済生会神奈川県病院予防医療センターでは、人間ドック・脳ドックほか、生活習慣病予防健診・各種がん検診等、多数のコースをご用意しております。皆さまの健康維持・管理に、予防医療センターをご利用ください。



- 済生会神奈川県病院 予防医療センター
電話 045-432-1117（平日 9:00～15:30）

祝・今上天皇ご即位

どんな時代であろうと「施薬救療」を実現し続けること

「生活苦で医療を受けることができず、困っている人たちを『施薬救療』（無償で治療すること）によって救おう」

明治44年2月11日、日清・日露戦争後に傷ついた国民のため、明治天皇が発令した「済生勅語」です。

これを受けた時の総理大臣・桂太郎が創立したのが、天皇陛下から頂いたという意味を持つ「恩賜財團 済生会」。

横浜市東部病院は、これを母体としています。

大正12年の関東大震災、済生会は巡回看護班を編成し、被災者の救護や感染予防にあたりました。

平成23年の東日本大震災では、延べ519人の医師・看護師等と介護職員14人を派遣。

さらに復興支援特別委員会を設け、現在も支援を継続しています。

年々激しさを増す自然災害、そして加速する高齢化社会。

時代は流れても、きっとどこかに私たちの医療を求める人たちがいる――

新時代も、先人たちから続く「施薬救療」の理念を胸に、ここ鶴見の地で「生命を救う道」をまっすぐに進んでいきます。

令和元年

済生会横浜市東部病院一同



※済生会は、初代総裁の伏見宮貞愛親王殿下が詠まれた歌にちなんで、「なでしこ」の花を紋章にしています。

